

クラス会の幹事を任された井上は、久しぶりに中学校時代の友人に電話を入れた。

「はい、阿部です」

「夜分遅く恐れ入ります。井上と申しますけど、絵美さんをお願いします」

「絵美は昨日からクラブの合宿に行ってます、今日は帰って来ないんです。帰って来るのはあさつての夜になるんですけど、何か急用ですか？」

「実は私、絵美さんの中学校時代のクラスメイトなんですけど、来月クラス会をやることになったので、その連絡なんです」

「そうですか。では、あさつて絵美が戻りましたら、すぐ連絡させるようにしますね。すみませんが、お名前をもう一度お願いします」

「井上明子と申します」

「井上明子さんですね。お家の方へお電話させればいいですか？」

「はい、お願いします。もし家にいない場合は、携帯電話の方にかけてもらえるように言ってもらえますか？ 一応番号を言っておきます。〇九〇―三二八一―四三七一です」

「〇九〇―三二八一―四三七一ですね。わかりました」

「よろしくお願いします。失礼します」

二日後、井上の家に阿部から連絡が入った。

「はい、井上です」

「夜分遅く恐れ入ります。阿部と申しますが、明子さんいらっしゃいますか？」

「もしもし絵美？ 久しぶり」

「本当、久しぶりね。おととい、連絡くれたそうだけどクラス会やるんだって？」

「そうなの。来月二十一日の土曜日に麻布でやることになったんだけど、絵美は出席できる？」

「時間は何時から？」

「一時からなんだけど」

「一時から麻布か・・・あいにくその日は部活の試合があるの。昼頃には終わる予定なんだけど、それから麻布まで行っても一時には間に合いそうにないな」

「安藤さんやや上野さんも一時間遅れて来るって言ってるし、途中からでも出席できない？ 小川先生もその日来るようになってるし、結構人数も集まりそうなんだ」

「それじゃ、早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、お店の名前と場所を教えてください」

「住所は東京都港区麻布台一―七―八、イタリアンガーデンっていうレストランなの。電話番号は〇三―三八五―一二四一、大通り沿いにあるから場所はすぐにかかると思うわ」

「わかった。ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるね」

井上はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに再度、確認の電話を入れた。